

稲 WCS 早刈り時の作業性及び飼料価値の検証：岡山

県備中県民局畜産第一班 渡辺早瑛

稲 WCS の早刈り収穫を行うことで、タンパク質含量の高い粗飼料生産が可能になる。今回、矢掛町内で栽培されたたちすずかを対象に汎用型飼料収穫機を用いて収穫時期を検討。収穫時期は出穂前（超早刈り期）、出穂直後（早刈り期）、完熟期（通常期）の3期とした。超早刈り期収穫では草量及び物理性が不足して十分な切断ができず、機械内の詰まりを解消するための作業中断が度々発生。早刈り期及び通常期収穫では、作業に問題はなかったが、落水時期が通常と異なる場合には、周囲の水田との調整が必要。1反あたりロール収量は、超早刈り期 3.5 個、早刈り期 6.8 個、通常期 7.2 個。CP 含量は、超早刈り期で乾物中 17.3%と高かったが、早刈り期は 8.3%まで低下。牛の嗜好性はどの時期も良好だった。このことから、稲 WCS では出穂期前後まで収穫作業の早期化が可能ながことが分かったが、より高タンパクを得るためには、収穫時期のさらなる検討が必要。